



「ご主人や子どももの着なくなった洋服を利用した壁掛け『太陽がいっぱい』」



来館されたアメリーさん



日仏の“技”と“感性”があふれた 32点を展示！ ～林アメリー・キルト展～

フランスのオートクチュール（高級仕立服）界で縫製技術者として活躍した林アメリーさんのキルト展が、4月14日から5月20日まで図書館ギャラリーで開催され町内外から約2,000人の方々が観賞に訪れました。

アメリーさんは、フランスで生まれ育ちパリの服飾デザイナー、クリスチャン・ディオールのアトリエで縫製の仕事をした後、独学でキルト制作を始め活躍中！日本の着物“和布”に魅せられ、タンスの底に眠っている着られなくなった着物・帯・羽織や端切れ、また家族の着られなくなった洋服などを再利用し、ベッドカバーや暖簾^{のれん}、洋服などいろいろな形に甦らせた見事な作品が展示されていました。

巧みな“技”と“感性”から生まれた32点には、パリ・ファッションに通じる感覚やヨーロッパの伝統と“和”の美がいっぱいに詰まった感性あふれる大作ばかりでした。

この開催にあわせ、4月に来館したアメリーさん。『古着でも端切れでも捨てるものなんて何もありません。我が家のタンスには、布の切れ端がたくさん詰まっているんですよ！』と気さくに話してくださり、“もったいない!!”の思いから生まれる数々の作品が、図書館のギャラリーを盛り上げてくれました。



ママ、とってもキレイだね。



パキスタン旅行で見た『パンジャビスーツ』



古い着物をふんだんに使用し、和の美を追求した暖簾



かわいいお客さんたちも真剣な眼差で!!



気さくに語るアメリーさん